

【生薬名】^{ろうかんそう}老鶴草、玄草 ㊦ *GERANII HERBA*

【起源植物】ゲンノショウコ *Geranium thunbergii*



【科名】フウロソウ科 *Geraniaceae*

【別名】ミコシグサ、タチマチ草、タキメン草など多数

【薬用部分】全草

【主成分】タンニン、フラボノイド

【薬性】気味は苦辛微温、帰経は大腸に属す？

- 【効能】●下痢や胃腸炎には15～20gをタンニンが多く出るよう濃く煎じ温服する、1日3～4回に分服する
- 便秘症で、下剤を飲むと腹痛が起こり、便がスッキリ出ない様な人は15～20gをタンニンが出過ぎないように軽く煎じて冷服するとよい
 - 玄草100g、艾葉100gを風呂で沸かした後入浴すると体を温め、渋り腹、冷え性、婦人の血の道によいという
 - 高血圧予防に玄草10g、十薬10g、決明子5～10gを煎服
 - 煎液は赤痢菌、腸チフス菌、大腸菌、ブレスロウ腸菌、ゲルトネル腸菌に対して試験管内で殺菌作用が確認されている。
 - 若い部分は食用出来る。天ぷらによい。ゆでて炒めたり、ごま和え、クルミ和えなどによい。

●
【出典】●風を去り経を疎し血を活し筋骨を健にし絡脈を通ずる。損傷、痺症、麻木皮風には酒に浸して常に飲めば大いに效がある。云々(本草綱目拾遺)

- 【備考】●ゲンノショウコの花は関東地方は白花が多く、九州では赤花が多い
- 江戸初期頃より日本で民間的に用い込まれたもので、これが痢疾に非常に良く効くところから「現の証拠」と名付けられたのであろう
 - 種がはじけた後の形が御神輿(おみこし)に似ているのでミコシグサの別名がある